

はにい『小中連携で広がる思いやりの輪』

令和8年2月24日

いじめ防止の取組の一つとして、三浦市立初声中学校ではピンクシャツデーにちなんだ活動を小中連携で実施している。ピンクシャツデーとは、いじめのない社会を願い、ピンク色をシンボルに思いやりの大切さを伝える取組で、毎年2月のピンクシャツデー月間に合わせて活動を行っている。

今年度は三浦市立初声小学校6年生と中学校1・2年生が合同で、小中の接続を意識した異学年間の交流の中で取組を行った。中学生は事前に画用紙にオリジナルのピンクシャツをデザインし、それぞれの思いを形にした。活動の当日は、小学生を含めたグループでそれらに色を塗り、いじめをなくしたいという願いや、友だちを大切にしたい気持ちをメッセージとして書き添えた。活動中には、中学生が小学生に作業の進め方を伝えたり、小学生の意見を尊重しながら制作を進めたりする姿が見られたほか、学年を超えて自分の作品を見せ合う姿も見られ、温かな空気に包まれていた。参加した児童からは、「中学生と一緒に活動できて、中学校に行くのが少し楽しみになりました。」という声も聞かれた。



この取組は今年で3年目となるが、学区の小学校との連携は今年度が初めての試みである。



昨年度までは中学校で制作した作品を小学校へ届ける形での交流にとどまっていたが、今年度は児童・生徒が同じ場で活動する形へと発展し、より直接的な関わりを通じた学びが実現している。回を重ねるごとに活動内容の見直しが行われ、より充実した学びとなるようこれまで改善を図ってきた。異学年で協働する経験を通して、相手を思いやる気持ちを育てることに加え、小中の接続期における人間関係づくりや安心感の醸成にもつながる取組となっている。

思いやりの気持ちを形にし、言葉にし、共有するこうした活動は、校種や学年の枠を越えて人と人とのつながりを育てている。子どもたちが互いを尊重し安心して過ごせる関係づくりに寄与する実践として、今後も継続的な取組の広がりが期待される。